

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 106 ~ 107 円台のレンジを中心に推移か

[5月25日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月18日 ~ 5月22日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	107.15	108.09(19)	107.04(18)	107.42	+0.36
ユーロ・ドル	1.0823	1.1008(21)	1.0800(18)	1.0928	+0.0108
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	20,388.16	+350.69	日本10年債利回り	-0.003	-0.004
ダウ平均株価	24,474.12	+788.70	米10年債利回り	0.672	+0.029
=====					

< 来週の主要経済統計等 >

25日 独第1四半期国内総生産 (GDP) 確報値

独5月IFO景況感指数

26日 NZ4月貿易収支

米3月S&Pケースシラー住宅価格指数、米3月住宅価格指数

米4月新築住宅販売件数、米5月消費者信頼感指数

27日 米MBA住宅ローン申請件数

米地区連銀経済報告 (ページブック)

28日 独5月消費者物価指数速報値

カナダ第1四半期経常収支

米第1四半期国内総生産 (GDP) 改定値

米4月耐久財受注、米新規失業保険申請件数

29日 日本4月雇用統計、日本4月有効求人倍率

日本4月鉱工業生産指数、日本4月小売業販売額

スイス5月KOF先行指数

ユーロ圏5月消費者物価指数速報値

カナダ4月鉱工業製品価格

米4月個人所得・支出

米5月シカゴ購買部協会景気指数

米5月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】今後も米国を中心に経済指標がどの程度の悪化を見せているのかが注目ポイントとなりそう。ドル円は108円を回復するには上値は重く、105円へ向かうほどの弱さもない。このため106 ~ 107円台を中心とするもみ合いが見込まれるとした。

【経済活動再開への動きがリスク選好の動きに】

米連邦準備制度理事会 (FRB) のパウエル議長は19日の上院での議会証言で、経済を支援するためにあらゆる手段を講じる意向を表明した。追加措置の可能性を示唆した。このところパウエル議長は似たような発言を繰り返しており、マイナス金利には否定的なものの、一段の措置には前向きな姿勢を示している。

4月28 ~ 29日に開催された米連邦公開市場委員会 (FOMC) の議事録によると、新型コロナウイルスの感染拡大による景気の悪影響が警戒されており、中期的に経済に多大な不確実性やリスクをもたらしていると警戒感を示した。また、すべての参会者が危機を乗り越えたと確信するまでは現在の金利水準を維持すること、必要に応じて追加の緩和措置を検討することでも一致している。市中金利を低めに抑えるため、短期

債や中期債に上限を設けて、米国債を買い入れる案も議論されたという。

19日に日銀は、22日に臨時の金融政策決定会合を午前9時より開催すると発表した。新型コロナウイルスの影響で経営環境が厳しさを増している中で、中小企業の支援策を決定すると報じられた。ドル円は107円台を中心に底堅い動きを続けてきた後、日銀の臨時会合開催の報道で19日に一時108円台に乗せた。その後は107円台半ばから後半での推移となっている。

22日の日銀金融政策決定会合では、金融政策には変更はなかった。中小企業向けの新たな資金繰り支援策を決定した。ただ、株価やドル円には影響は限定的だった。

22日に開幕した全国人民代表大会（全人代、中国の国会に相当）では、香港での国家分裂などの反政府行為を禁じる国家安全法が議題になることが判明した。香港市民の自由がさらに失われる可能性があり、警戒感を誘っている。トランプ米大統領は国家安全法に対して強く対処すると明言している。香港を巡っても米中対立への警戒感が高まりを見せることとなりそうだ。

各国での経済活動再開は明るい話題となっているものの、感染拡大第2波も警戒される。トランプ米大統領はツイッターで中国を強く非難しており、米中対立の深刻化が警戒される。リスク選好の動きなどからドル円は108円台を回復する場面も見られたが、一段と大きく上昇するには力不足とみられる。

欧米の経済指標には「予想ほど悪くない」というものも散見されるが、経済の本格的な出直しには時間がかかるとみられる。米中対立がさらに激化して、新型コロナウイルスの感染拡大第2波が警戒されるようになれば、リスク回避の円買いに傾く可能性もある。こうした中、ドル円は106～107円台のレンジを中心とした動きを続けるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、106.00～108.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、26日に米3月S&Pケースシラー住宅価格指数、米3月住宅価格指数、米4月新築住宅販売件数、米5月消費者信頼感指数、27日に米MBA住宅ローン申請件数、米地区連銀経済報告（ページブック）、28日に米第1四半期国内総生産（GDP）改定値、米4月耐久財受注、米新規失業保険申請件数、29日に日本4月雇用統計、日本4月有効求人倍率、日本4月鉱工業生産指数、日本4月小売業販売額、米4月個人所得・支出、米5月シカゴ購買部協会景気指数、米5月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは戻り一服でレンジ相場か】

ドイツ政府とフランス政府は、18日に新型コロナウイルスで悪化した景気を支えるため、欧州連合（EU）で5000億ユーロ（約58兆6000億円）規模の復興基金設立を支持することで合意した。基金の資金は共同で調達するという。欧州の景気が下支えされるとの見方から、19日のユーロドルは1.08ドル近辺から1.09台前半まで大きく上昇した。その後もユーロドルは堅調に推移して、21日には一時1.1000ドルの節目に乗せた。

ユーロ圏では経済活動が徐々に再開しており、これにより景気底入れから回復への期待感が徐々に広がっている。21日にはドイツ、ユーロ圏の5月の製造業と非製造業の購買担当者景気指数（PMI）速報値が発表された。多くが予想から上振れしている上、すべてが前回値を上回った。好不況の境目となる50には届かないものの、投資家心理の改善につながり、ユーロ買いの動きにつながった。

ただ、4月以降、ユーロドルは戻しても1.1000ドル近辺で上値を抑えられてきた。下げても1.0700台で下げ渋りを見せている。1.1000ドルをしっかりと超えて一段と上昇するだけの材料に乏しいとみられ、ユーロドルはレンジ相場が継続するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0750～1.1050ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、25日に独第1四半期国内総生産（GDP）確報値、5月IFO景況感指数、26日にNZ4月貿易収支、28日に独5月消費者物価指数速報値、カナダ第1四半期経常収支、29日にスイス5月KOF先行指数、

ユーロ圏 5 月消費者物価指数速報値、カナダ 4 月鉱工業製品価格などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。